



# 海洋教育指導資料

高等学校編



Supported by  
日本財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

お茶の水女子大学

## 高等学校教科書からの抽出と教科を超えたデータベース作り

H26 年度は高等学校の国語科、理科、社会科の教科書における「海」に関連するものを抽出し、データベースを作成しました（お茶の水女子大学 平成 26 年度海洋教育促進事業報告書 178-234 ページ）。その結果、1つの教科書内でも同じようなテーマが複数回扱われている例や、あるキーワードが様々な教科で扱われている例が多く見られました。実際に学校現場で、ある単元で「海」に焦点を当てた授業を展開する場合にも、教師側も「なんとなく」他の教科でも扱うであろうことは予想できますが、具体的にどの教科の、どの単元の、どのページと関連するのかについて、しっかり把握することは困難です。特に理科と社会科など教科を超える場合はなおさらです。

そこで本年度は、H26 年度に作成したデータベースを基に近年注目されてきているキーワードをいくつか選び、教科横断型のデータベース作成を行いました。

対象としたキーワードと検索した教科書は以下のものを使用しました。

### キーワード

環境，温暖化，サンゴ

「汚染・汚濁」，「戦」，「資源」，「港」，「運」，「航海・航路」

### 検索対象とした教科書

国語総合現代文編	東京書籍	平成 24 年 3 月検定済	2 東書国総 303
国語総合古典編	東京書籍	平成 24 年 3 月検定済	2 東書国総 304
現代文 B	三省堂	平成 25 年 3 月文検定済	1 5 三省堂現 B303
古典 B	三省堂	平成 25 年 3 月検定済	1 5 三省堂古 B304
世界史 B	東京書籍	平成 24 年 3 月 27 日検定済	2 東書世 B301
詳説日本史	山川出版	平成 24 年 3 月 27 日検定済	81 山川日 B301
新詳地理 B	帝国書院	平成 24 年 3 月 27 日検定済	46 帝国地 B-301
高校政治・経済 新訂版	実教出版	平成 19 年 3 月 22 日検定済	7 実教政経 023
高等学校改訂版現代社会	第一学習者	平成 18 年 3 月 20 日検定済	183 第一現社 026
高校倫理	実教出版	平成 19 年 3 月 22 日検定済	7 実教政経 018
物理基礎	第一学習社	平成 23 年 3 月 30 日検定済	183 第一物基 309
物理	第一学習社	平成 24 年 3 月 15 日検定済	183 第一物理 305
化学基礎	東京書籍	平成 23 年 3 月 30 日検定済	2 東書化基 301
化学	東京書籍	平成 24 年 3 月 15 日検定済	2 東書化学 301
生物基礎	東京書籍	平成 23 年 3 月 30 日検定済	2 東書生基 301
生物	東京書籍	平成 24 年 3 月 15 日検定済	2 東書生物 301

① キーワード「環境」、「温暖化」、「サンゴ」に関わる教科書における「海」

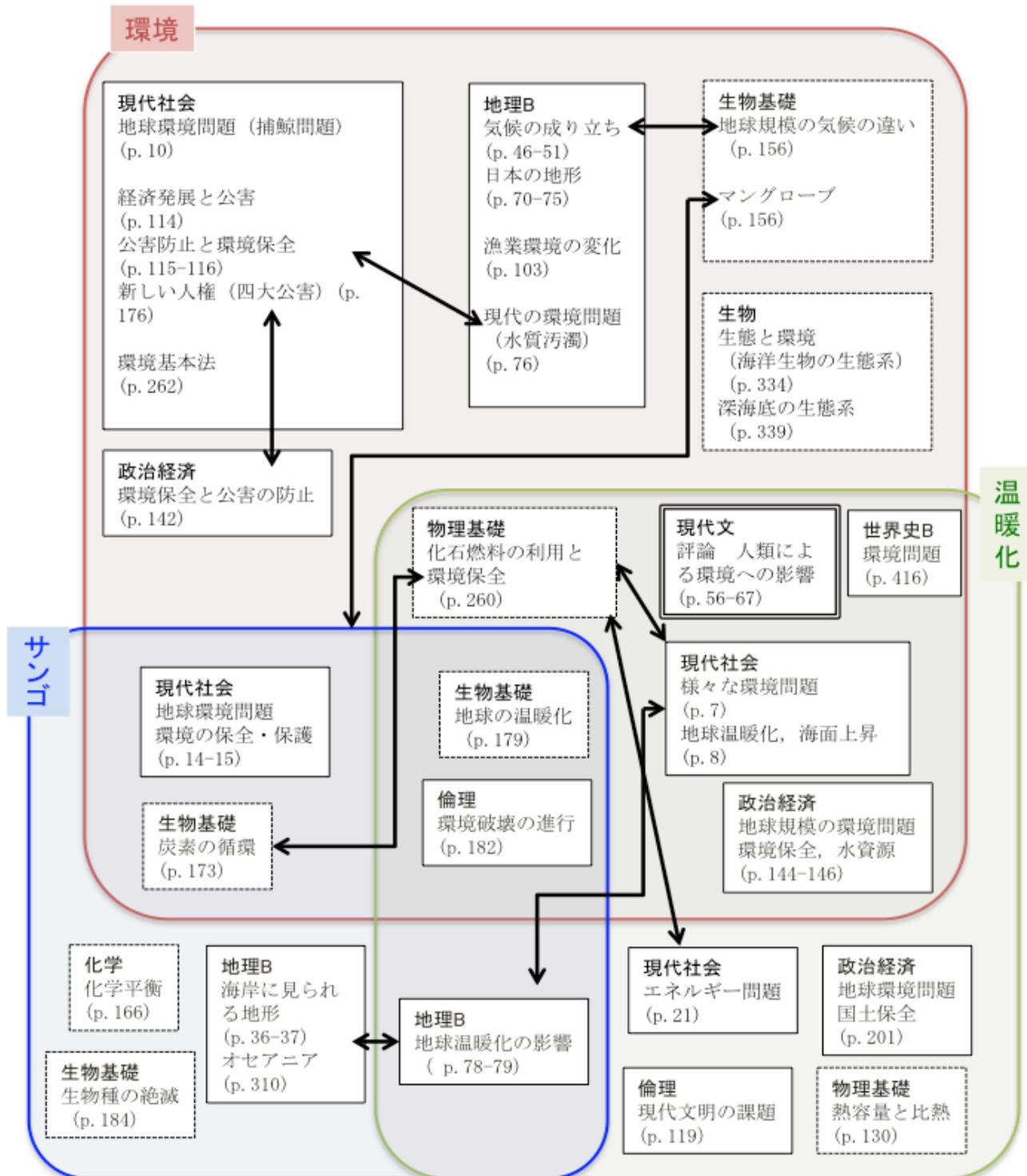
環境	検索キーワード		教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
	温暖化	サンゴ									
○	○		国語	現代文B	1部	3評論	人類による環境への影響	56-65			
○	○		社会	世界史	第6編 地球世界の成立	終章 経済のグローバル化と新たな地域秩序	3 21世紀を生きる一地球的課題の時代	416	環境問題	地球温暖化、海水面の上昇、環境難民	環境問題
		○	社会	地理	1章 自然環境	1節 世界の地形	2 外的営力によってつくられる小地形	36-37	海岸に見られる地形	海岸の地形 離水海岸と沈水海岸 サンゴ礁	海岸の地形
○			社会	地理	1章 自然環境	2節 世界の気候	1 気候の成り立ち	46-51		季節風、海流の分布、水の循環、海水面の上昇・下降、エルニーニョ現象・ラニーニャ現象	気候と海洋
○			社会	地理	1章 自然環境	3節 日本の自然の特徴と人々の生活	1 日本の地形	70-75		プレートと海溝 (日本海溝、南海トラフ・南西諸島海溝) 日本の気候 (暖流(黒潮、対馬海流)と寒流(親潮、リマン海流)が日本の気候に影響) 日本の自然災害 (津波、高潮など) 人間生活と自然環境 (干潟、埋め立て地)	気候と海洋 災害・防災と海洋
○		○	社会	地理	1章 自然環境	4節 環境問題	1 世界の環境問題	76	現代の環境問題	水質汚濁の激しい地域＝沿岸地域	沿岸域の環境問題
	○	○	社会	地理	1章 自然環境	4節 環境問題	2 さまざまな環境問題	78-79	地球温暖化の影響	海水面の上昇 沿岸域やサンゴ礁の島々 の水没の危機 サンゴ礁の衰退・漁業、観光業への影響	地球温暖化の海洋への影響と人間生活

○				社会	地理	2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	4 世界の林業・水産業	103	世界の主な漁場と栽培漁業	世界最大の漁獲量の地域:太平洋北西部 近年は中国の漁獲量が増加 寒冷漁船の来明 遠洋漁業:近年は資源枯渇の懸念から漁獲量は減少 養殖業・栽培漁業	漁業
	○	社会	地理	2章 現代世界の諸地域	11節 オセアニア	1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会	310 NA	島嶼地域 サンゴ礁(グレートバリアリーフ)	島嶼部 サンゴ礁	海洋環境問題		
○	○	社会	現代社会	第1編 現代に生きる私たちの課題	1 地球環境問題		7 図1 6行	様々な環境問題	地球環境問題の相互作用 海洋汚染、地球の温暖化、生活排水の海への流入、野生生物種の減少	海洋環境問題		
○	○	社会	現代社会	第2編 現代に生きる私たちの課題	1 地球環境問題		8 図3 8-9行	地球の温暖化	水没の危機が高まる島(ツバル) 海面上昇	海洋環境問題		
○		社会	現代社会	第3編 現代に生きる私たちの課題	1 地球環境問題		10 13行~	森林の破壊と野生生物の種の減少 少ノ捕鯨問題	クジラの捕鯨、文化的多様性、生物多様性、環境保護	海洋生物の利用、保全・保護		
○	○	社会	現代社会	第4編 現代に生きる私たちの課題	1 地球環境問題		14-15	次の世代に受け渡したい環境	世界遺産条約 カラバゴス諸島 敵島神社 小笠原諸島 サンゴ礁の海	海洋環境の保全・保護		
	○	社会	現代社会	第8編 現代に生きる私たちの課題	2 資源・エネルギー問題		21 2行	期待される新エネルギー	潮汐を利用した新エネルギー 植物をエネルギー源とし たバイオマス・エネルギー	波力発電、潮流・潮汐発電、海洋温度差発電などの研究・開発 藻類を利用したバイオマスエネルギーの可能性		
○		社会	現代社会	第6編 現代の社会と人間としてのあり方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	114	経済発展と公害問題	水俣病 水質汚濁 四日市ぜんそく:石油工場の排水によって漁業に影響 イタイイタイ病:気象庁が海洋のカドミウム測定	海洋環境汚染		

キーワード「環境」、「温暖化」、「サンゴ」表続き

○	社会	現代社会	第7編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	115-116	公害防止と環境保全 関連P. 176	公害対策基本法(1976年) 環境基本法	海水油濁防止法(船舶の油による海水の汚濁の防止に関する法律) 海洋汚染防止法	環境問題
○	社会	現代社会	第15編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第5章 現代の民主政治と私たちの生活	6 基本的人権の保障と新しい人権	176	新しい人権 関連P. 115	四大公言		

## キーワードで考える高校の教科書における「海」



②キーワード「汚染・汚濁」に関わる教科書における「海」

教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
社会	地理	1章 自然環境	4節 環境問題	1 世界の環境問題	76	現代の環境問題	水質汚濁の激しい地域＝沿岸地域	沿岸域の環境問題
社会	地理	1章 自然環境	追求	追求：海洋汚染	87		海洋汚染	海洋汚染
社会	現代社会	第6編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	114	経済発展と公害問題	水俣病 水質汚濁 四日市ぜんそく：石油工場の排水によって漁業に影響 イタイイタイ病：気象庁が海洋のカドミウム測定	海洋環境汚染
社会	現代社会	第7編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	10 公害の防止と環境保全	115-116	公害防止と環境保全 関連P. 176	公害対策基本法（1976年） 環境基本法	海水油濁防止法（船舶の油による海水の汚濁の防止に関する法律） 海洋汚染防止法
社会	現代社会	巻末資料	環境基本法		262		海洋の汚染，野生生物種の減少 水質汚濁	
社会	政治経済	第2編 現代の経済	第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	142	日本の公害	四大公害（水俣病，新潟水俣病）	海洋汚染
理科	生物	第4編 生物の多様性と生態系	3章 生態系とその保全	4- 生物多様性の保全 C-外来生物の問題と自然再生	185		外来生物	日本が汚染源となっている海産生物もいる。例えばワカメは日本から海外に「外来生物」として運ばれた。ヨーロッパではワカメを食べる習慣がなく，沿岸域の生態系に影響を及ぼしている。

③キーワード「領土・領海」に関わる教科書における「海」

社会科のみ

科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
世界史	第3編 一体化する世界	第13章 大交易時代	1 海洋帝国の出現	216-219	東洋への関心 ポルトガルのインド洋進出 ポルトガルの南シナ海, 東シナ海進出 海洋帝国  スペインのアメリカ大陸進出と世界周航 アメリカの征服	アフリカ南端(喜望峰)を通過し, インド西岸への航路(ヴァスコ＝ダ＝ガマ). マラッカの軍事占領 南シナ海交易, マカオの居住権. 種子島, 平戸に来航 海上ルートの支配により複数の世界を結ぶ交易の独占をはかる国家 コロンブス(ジェノバ出身)の大西洋横断. マゼランの世界就航. スペインによる中南米の征服. イギリス, フランスによる北米大陸の植民地化.	航海, 航路, 伝染病
地理	4章 生活文化, 民族・宗教	3節 現代世界の国家		205	国家と領域	領土 領海: 普通は沿岸から12海里 排他的経済水域	排他的経済水域
地理	2章 現代世界の諸地域	10節 ラテンアメリカ	1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化	303	大西洋上の領域	スペインとポルトガル 1494年トルデシヤリス条約	領海
地理	3章 現代世界と日本			319	日本が抱える地理的な諸課題	領土の管理 沖ノ島島: 海水面の上昇や波浪などの影響で水没の危機	領土, 領海
現代社会	第11編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第5章 現代の民主政治と私たちの生活	1 民主政治における個人と国家	147	政治と国家	主権の及ぶ範囲(国連海洋用条約) 公海, 深海底, 排他的経済水域, 接続水域, 領海	海洋と領土
現代社会	第18編 現代の社会と人間としてのあり方生き方		3 国境と領土問題	209	領土をめぐる問題	南沙諸島 竹島(韓国での呼称は独島), 尖閣諸島(中国での呼称は釣魚島(魚釣島))	
政治経済	第1編 現代の政治	第1章 民主政治の基本原則	2 政治と法	7	新時代の政治	国家と領域(領土, 領海, 領空) 領海(12海里) 排他的経済水域(200海里) 公海	領域

④キーワード「戦」に関わる教科書における「海」

社会科のみ

科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
世界史	第1編 様々な地域世界	第1章 オリエント世界と東地中海世界	3 ギリシア世界	42	ペルシア戦争と民主政	サラミスの海戦, アテネの軍船には漕ぎ手として下層市民が参加, (やがて市民が政治に参加するようになる)	海戦, (海軍, 軍船)
世界史	第7編 一体化の進展と世界の再編	第18章 世界戦争の時代	6 第二次世界大戦	368	アジア太平洋戦争	アジアから太平洋への戦線の拡大	海戦 (戦争)
日本史	第I部 原始・古代	第3章 貴族政治と国風文化	3 地方政治の展開と武士	82	地方の反乱と武士の成長	藤原純友の乱: 瀬戸内海 の海賊	海戦
日本史	第II部 中世	第4章 中世社会の成立	2 鎌倉幕府の成立	96	源平の争乱	治承・寿永の乱. 兵士の水軍, 屋島の合戦, 壇ノ浦の戦い 壇	海戦 海の潮位, 潮流の流れが歴史に影響を及ぼした例である
日本史	第II部 中世	第4章 中世社会の成立	4 蒙古襲来と幕府の衰退	107	蒙古襲来	蒙古襲来 (文永の役, 弘安の役)	海戦
日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	256	公武合体と尊攘運動	四国艦隊下関砲撃事件, 薩英戦争	海戦
日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	3 立憲国家の成立と日清戦争	290	日清戦争と三国干渉	1894 豊島沖海戦 1894 黄海戦: 北洋艦隊を撃破	海戦
日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	4 日露戦争と国際関係	295	日露戦争	1905 日本海海戦: バルチック艦隊を全滅	海戦
日本史	第IV部 近代・現代	第10章 二つの世界大戦とアジア	6 第二次世界大戦	362-365	太平洋戦争	太平洋戦争	海戦
現代社会	第12編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第5章 現代の民主政治と私たちの生活	5 平和主義と安全保障	162 6行	戦争の放棄	「陸海空軍その他の戦力は, これを保持しない」	海と軍事力

⑤キーワード「資源」に関わる教科書における「海」

社会科のみ

科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
地理	2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	4 世界の林業・水産業	103	世界の主な漁場 漁業環境の変化と栽培漁業	世界最大の漁獲量の地域：太平洋北西部 近年は中国の漁獲量が増加 冷凍船の発明 遠洋漁業：近年は資源枯渇の懸念から漁獲量は減少 養殖業・栽培漁業	漁業
地理	2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	水産資源回復への取り組み	105		マグロ類の畜養 ワシントン条約による大西洋産・地中海産くろまぐろ商業取引の禁止の議論 完全養殖技術の開発(日本)	水産資源回復
現代社会	第5編 現代に生きる私たちの課題	2 資源・エネルギー問題		18 8行	限りある資源	水産資源 エネルギー資源	海洋の資源
現代社会	第6編 現代に生きる私たちの課題	2 資源・エネルギー問題		19 11行	エネルギー利用の変化と石油の需要	資源のほとんどを輸入している	資源運搬としての海運
政治経済	第3編 現代の経済	第3章 現代経済と福祉の向上	4 環境保全と公害の防止	144-146	地球規模の環境問題	地球温暖化：海水温の上昇 生物多様性の減少：海洋生物も減少 水資源の減少：海水の淡水化	海洋環境 海洋生物

⑥キーワード「港」に関わる教科書における「海」

教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
社会	世界史	1：世界のとびら		1. 自然環境 世界史の舞台	11	海域	漁民, 中継港 (マラッカ), 物流, 文明の仲介	海洋と沿岸域に発達した民族, 都市と歴史
社会	世界史	1：世界のとびら		3. 病気と伝染病	19	伝染病の歴史	人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病, 港湾都市ジェノバ (イタリア), ペストのヨーロッパの玄関口, コロンブスの航海, 天然痘, はしか, ペスト, インディオ人口の激減	人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病
社会	世界史	第1編 様々な地域世界	第1章 オリエント世界と東地中海世界	1 オリエント世界の成立	34_35	交易する諸民族	東地中海「海の民」, フェニキア人の港市 (シドン, ティハス) 植民市の建設 (カルタゴ), ヘブライ人, 紅海の海上交易	民族の移動, 交易, 港市国家
社会	世界史	第1編 様々な地域世界	第2章 地中海世界と西アジア	世紀の世界 2世紀の世界	62-63		「海の道」, ローマー 東南アジア (インド洋, 南シナ海), 港市国家: 扶南, チャンパー (林邑) の繁栄	交易
社会	世界史	第1編 様々な地域世界	第6章 東南アジア世界	1 海の道の形成と東南アジア	103	港市国家の誕生 (関連 P. 191)	インド洋と南シナ海を中継する港市国家	港市国家
社会	世界史	第2編 結び合う地域世界	第9章 ヨーロッパ世界の形成	3 封建社会と都市	143, 144	商業と都市の発展	地中海貿易圏 (ヴェネツィア, ジェノヴァ, ピサなど) バルト・北海交易圏 (ブリュージュ, ガン, ロンドンなど)	港市, 交易
社会	世界史	第2編 結び合う地域世界	第10章 東アジア世界の変容とモンゴル帝国	3 ユーラシア大陸をおおうモンゴル帝国	170, 173	モンゴル帝国時代の東西交流	東南アジアの港市にムスリム商人が定着 マルコポーロ (ベネツィアの商人, 東方見聞録) 復路は海路 イブン=バトゥータ (モロッコ生まれ, イスラム的知識人) 三大陸周遊記)	交易
社会	世界史	第3編 一体化する世界	第11章 海域世界の発展	3 海と陸の結合ー東南アジア世界の発展 3	187-191	港市国家の発展 マラッカと鄭和	南海交易 港市国家と内陸のつながり 明の朝貢 マラッカ: 海の交易の中心 (東南アジアの流通網, ムスリム商人と中国商人)	交易, 港市国家
社会	世界史	第3編 一体化する世界	第11章 海域世界の発展		191	港市国家とは何か	政治的独立性をもった海の中継地. 代表例: 13-18世紀ヴェネツィア 銀価格の統一, 技術の進歩などにより衰退したが, 20世紀後半新しい港市国家が生まれた. 例: シンガポール	交易

表続き

教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
社会	日本史	第II部 中世	第5章 武家社会の成長	4 戦国大名の登場	152	都市の発展と町衆	貿易港 界, 博多	交易
社会	日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	250-254	開港	開港: 神奈川, 長崎, 新潟, 兵庫 貿易: 横浜, 長崎, 箱館	外交 交易
社会	地理	2章 資源と産業	8節 世界を結ぶ交通・通信	1 世界の交通網	151	さまざまな交通機関 [1]水上交通	船舶 (タンカーなどの大型船舶も含む) 中継貿易港 (香港, シンガポールなど) 運河 (パナマ運河, スエズ運河)	海運業 交易
社会	地理	3章 人口, 村落・都市	4節 都市・居住問題	1 世界の都市・住居問題	188	先進国の都市問題解決のために	港湾都市部のウォーターフロント開発 日本: 台場, 汐留, みなとみらい21 (横浜) など	港湾都市 観光
社会	現代社会	第8編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第4章 国際経済の動向と日本の役割	1 国際経済のしくみと貿易の拡大	124	国際分業と貿易	貿易, 輸入, 輸出	海運業, 港
社会	現代社会	第13編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第5章 現代の民主政治と私たちの生活	5 平和主義と安全保障	163 6行	非核三原則	核兵器の持ち込みにかんし, 在日米軍基地に寄港する艦船に核兵器が持ち込まれているという疑惑.	海と軍事力
理科	物理基礎		第III章波動	第1節 波の性質	156-177		波の性質 波の屈折	海洋の波とは, 海面の起伏のことであり, 一般に風によって生じる. 波は周期によって分類することができる (さか波, うねり, セイシュ (港でバチャバチャと前後に揺れる波), 津波, 潮汐など).
理科	物理		第II章波動	第1節 波の伝わり方	108-121			

⑦キーワード「運」に関わる教科書における「海」

教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
社会	世界史	第5編 一体化の進展と世界の再編	第17章 アジア諸地域の変革運動		306	スエズ運河の開通	1869年スエズ運河開通	交易
社会	日本史	第III部 近世	第7章 幕藩体制の展開	2 経済の発展	207-208	交通の整備と発達	水上交通の発達 菱垣廻船, 東廻り海運・西廻り海運, 樽廻船, 北前船, 内海船	物流
社会	日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱	256	公武合体と尊攘運動	四国艦隊下関砲撃事件, 薩英戦争	海戦
社会	日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	5 近代産業の発展	300	産業革命	海運業奨励政策(造船奨励法, 航海奨励法)	海運業
社会	地理	1章 地理情報と地図	2節 地図の種類とその利用	1 地球儀と様々な地図	9	地図の種類と様々な図法	メルカトル図法 正距方位図法 航海航路	航海(船の運航)と地図の種類
社会	地理	1章 自然環境	1節 世界の地形	1 世界の大地形	27	プレート運動と様々な境界	海洋プレート 沈み込み帯: 日本海溝 海嶺: 太平洋, 大西洋, インド洋 大陸の裂け目: 紅海	プレートテクトニクスと海洋
社会	地理	2章 資源と産業	2節 世界の農林水産業	3 現代世界の農業の現状と課題	98	グローバル化の中の世界の農業	穀物メジャー(多国籍企業の穀物商社) 輸出入における海運業	海運 物流
社会	地理	2章 資源と産業	6節 世界の工業	1 工業の発達と立地	132	工業の立地	重工業では 臨海部: 輸出入に便利で, かつ市場に隣接 日本の大太平洋ベルト	海運業 物流
社会	地理	2章 資源と産業	7節 第3次産業	2 世界の観光業	147-148		リゾート地としてのビーチ 海洋レジャー エコツーリズム(例: 西表島)	海洋レジャー
社会	地理	2章 資源と産業	7節 第3次産業	世界遺産登録と観光開発の功罪	148	日本の世界遺産	小笠原諸島	
社会	地理	2章 資源と産業	8節 世界を結ぶ交通・通信	1 世界の交通網	151	さまざまな交通機関 [1]水上交通	船舶(タンカーなどの大型船舶も含む) 中継貿易港(香港, シンガポールなど) 運河(パナマ運河, スエズ運河)	海運業 交易
社会	現代社会	第6編 現代に生きる私たちの課題	2 資源・エネルギー問題		19 11行	エネルギー利用の変化と石油の需要	資源のほとんどを輸入している	資源運搬としての海運
社会	現代社会	第3編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	101 5行, 7行, 10行	産業構造の高度化	漁業(第一次産業) 造船業(第二次産業) 運輸(第三次産業)	海洋に関わる産業

表続き

教科	科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
社会	現代社会	第4編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	102	第3次産業の現状と課題	運輸, 物流	海運業も運輸, 物流に大きく関わる
社会	現代社会	第5編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	107	林業・水産業の現状と課題	食料自給率(魚介類) マグロの完全養殖 200海里経済水域, 公海 遠洋漁業の縮小 栽培漁業 「作り育てる漁業」	漁業
社会	現代社会	第8編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第4章 国際経済の動向と日本の役割	1 国際経済のしくみと貿易の拡大	124	国際分業と貿易	貿易, 輸入, 輸出	海運業, 港
理科	生物	第4編 生物の多様性と生態系	3章 生態系と生物の保全	4- 生物多様性の保全 C-外来生物の問題と自然再生	185		外来生物	日本が汚染源となっている海産生物もいる。例えばワカメは日本から海外に「外来生物」として運ばれた。ヨーロッパではワカメを食べる習慣がなく、沿岸域の生態系に影響を及ぼしている。

⑧キーワード「航海・航路」に関わる教科書における「海」

社会科のみ

科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
世界史	1：世界のとびら	NA	3. 病気と伝染病	19	伝染病の歴史	人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病 、港湾都市ジェノバ(イタリア), ペストのヨーロッパの玄関口, コロンブスの航海, 天然痘, はしか, ペスト, インディオ人口の激減	人とものが動く拠点としての港町, 航路と伝染病
世界史	第1編 様々な地域世界	序章 文明以前の人類	1 人類の登場	25	原人から新人へ	北米・南米への進出, 海水面の低下, オセアニアへの進出, 海路	人の移動と海水面, 航路
世界史	第1編 様々な地域世界	第3章 南アジア世界	2 ヒンドゥー世界の成立	70	南インド世界の展開	インド洋交易: 季節風を利用した航海	交易
世界史	第2編 結び合う地域世界	第9章 ヨーロッパ世界の形成	3 封建社会と都市	140	包囲される西ヨーロッパ	ヴァイキング: 優れた造船と航海の技術	交易, 略奪
世界史	第2編 結び合う地域世界	第9章 ヨーロッパ世界の形成	6 中世的世界の動揺	155	ポルトガルとスペインの台頭	ポルトガル: インド航路開発 スペイン: 1942 コロンブスの大西洋横断航海	海外進出
世界史	第3編 一体化する世界	第13章 大交易時代	1 海洋帝国の出現	216-219	東洋への関心 ポルトガルのインド洋進出 ポルトガルの南シナ海, 東シナ海進出 海洋帝国  スペインのアメリカ大陸進出と世界周航 アメリカの征服	アフリカ南端(喜望峯)を通過し, インド西岸への航路(ヴァスコダガマ). マラッカの軍事占領 南シナ海交易, マカオの居住権. 種子島, 平戸に来航 海上ルートの支配により複数の世界を結ぶ交易の独占をはかる国家 コロンブス(ジェノバ出身)の大西洋横断. マゼランの世界就航. スペインによる中南米の征服. イギリス, フランスによる北米大陸の植民地化.	航海, 航路, 伝染病
世界史	第6編 一体化の進展と世界の再編	第17章 アジア諸地域の変革運動	2 南アジア・東アジアの植民地化と民族運動の黎明	321	オセアニア(北太平洋地域)の植民地化	南太平洋地域: 3万年前に最初の人が移住 6000年前-10世紀頃にカヌーを操って移住 クックの航海 (P. 250)	人の移動 植民地
日本史	第I部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	13	縄文人の生活と信仰	海進(海面の上昇)により, 漁労が発達(釣針, 銚, やす), 貝塚 丸木舟, 外洋航海術を持っていた	漁労 航海
日本史	第I部 原始・古代	第2章 律令国家の形成	4 天平文化	55-56	国史編纂と『万葉集』	万葉集, 防人の歌(p. 39) 鑑真, 渡航の失敗	国防 文化の移入

表続き

科目	編	章	見出し	ページ	小見出し	キーワード	海洋との関わり
日本史	第I部 原始・古代	第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治	71	国際関係の変化	九州博多:宋の商人の来航 日本人の渡航は禁止	交易
日本史	第III部 近世	第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権	156-158		(ヨーロッパ)大航海時代 1543 中国人倭寇の船, 種子島ポルトガル人 南蛮貿易 1582 天正遣欧使節	交易
日本史	第III部 近世	第8章 幕藩体制の動揺	3 幕府の衰退と近代への道	234-235	鎖国の動揺	外国船の来航	外交
日本史	第IV部 近代・現代	第9章 近代国家の成立	5 近代産業の発展	300	産業革命	海運業奨励政策(造船奨励法、航海奨励法)	海運業
地理	1章 地理情報と地図	2節 地図の種類とその利用	1 地球儀と様々な地図	9	地図の種類と様々な図法	メルカトル図法 正距方位図法 航海 航路	航海(船の運航)と地図の種類
現代社会	第2編 現代の社会と人間としてのあり方生き方	第3章 現代の経済社会と私たちの生活	8 産業構造の変化	100	技術革新のあゆみ	1710年蒸気機関発明 1807年蒸気船実用化	航海技術の発展
倫理	第2編 現代と倫理	第1章 現代の特質と倫理的課題	第1節 科学技術の発達と現代文明の危機	117	他者の発見ー大航海時代	航海技術の発達とともにヨーロッパの宗教や価値観を持ち込んだ。	航海技術